



はつらつ 通信



Vol. **123**
2014.4.1

増刊号

●発行 医療法人北志会 札幌ライラック病院
●編集 はつらつ通信局

新スタッフの ご紹介

新年度に新しいスタッフが着任

今春、札幌ライラック病院は多数の部門で新しいスタッフを迎えました。消化器の分野を中心に豊かな経験を持つ3名の医師をはじめ、看護師、介護員、理学療法士、言語聴覚士、そして体制を刷新して在宅サービスを拡充した「総合支援センターらいらっく」には医療ソーシャルワーカー。人工呼吸器装着の入院患者さまの増加を受け、医療機器管理の専門家である臨床工学技士も増員しました。



マンパワーの補強でケアの質を向上

新スタッフが加わることで、それぞれの部門では医療サービスの質の向上が期待されています。医師の増員は在宅療養支援病院として訪問診療を行う体制の強化につながります。言語聴覚士が2名となったことで、脳卒中後の失語症や高齢者の嚥下などに対するリハビリを充実させる道筋が整いました。

今号では、新スタッフ11名をピックアップし、地域の皆さまへごあいさつさせていただきます。

旬に新しい風をお届けます いたします

地域の皆さまに 新スタッフがごあいさつ

増員や退職者の補充により、当院に着任した新スタッフから11名をご紹介します。

医師や看護師、介護やリハビリのスタッフ、医療相談員といった、患者さまやご家族の方々が顔を合わせる機会が多い職種のほか、皆さまと接する機会は少ないものの病院に不可欠な臨床工学技士や薬剤師にも新しい顔が加わりました。新スタッフが持つ異なる環境での経験や新しい視点は、風通しの良い病院づくりを後押ししてくれそうです。

療養型病院の経験に 心療内科の視点もプラス

神島 真人 医師

かつて同じ病院で働いていた本庄院長から声をかけられ、当院勤務を決めた神島医師。自宅のある札幌と勤務地の伊達市を往復する働き方を考え直そうとしていた時期にあたり、びつたりのタイミングだったといえます。神島医師には療養型病院での実績のほか、心療内科学会登録医として内科診療を精神分野の視点で診てきた経験もあります。「なかなか治らない難治性胃潰瘍が心身症だった例もあり、ときに心療内科的な観点から

も診ることが重要になる場合があります」。消化器は精神的な刺激に敏感な臓器であり、ストレスフルな現代は小学生が胃潰瘍になる時代。「心療内科の治療を必要とする患者さまを、専門医につなげる役割も担っていければ」と抱負を語りました。



神島 真人
(かしま まひと)
1959年、岐阜県生まれ。聖マリアンナ医科大学医学部卒業後、実家のあった北海道に戻り、札幌道都病院に勤務。立ち上げから関わった聖ヶ丘病院を経て、2014年4月1日、当院診療部に着任。

小外科の分野でも 地域医療に貢献

濱口 純 医師

主に消化器の分野で急性期から慢性期にかけての治療に携わってきた濱口医師。がん治療認定医でもあ

り、北海道がんセンター勤務の経験もあります。

また、外科の経験も長かったことから、日常的なちよつとしたケガやキズなど、いわゆる小外科的疾患の治療で活躍が期待されています。「当院は人工呼吸器を装着されている患者さまが多く、褥瘡の治療などでもお役に立てるのではないかと思います」。

当院は昨年11月に糖尿病足病変を予防・治療するフットケアをスタートさせています。一般的な内科診療はもちろん、足のキズや巻き爪の治療などで濱口医師の知識と経験が求められる場面が増えそうです。



濱口 純
(はまぐち じゅん)
1972年、倶知安町生まれ。北海道大学医学部卒業後、同大病院第1外科入局。岩見沢市立病院病院、市立小樽病院、帯広協会病院などを経て、2014年4月1日、当院診療部に着任。

漢方薬治療にも精通する ピロリ菌の専門医

板橋 健太郎 医師

消化器を中心に内科全般で経験を積んだ板橋医師。道内に50名ほどしかいないピロリ菌の専門医でもあります。「消化器に力を入れていくという病院の方針を伺い、今までの臨床経験を患者さまのために生かせると考えました」。

急性期から慢性期、長期療養まで幅広く対応する当院を、「二人の患者さまを全人的に診ることができる体



板橋 健太郎
(いたばし けんたろう)
1977年、札幌市生まれ。旭川医科大学医学部卒業後、同大学病院第3内科入局。旭川厚生病院、札幌東徳洲会病院、町立中標津病院、石狩病院などを経て、2014年4月1日、当院診療部に着任。

フレッシュな顔ぶれが、 よろしくお原

制」と評価。得意分野を生かして「胃がんや大腸がんの予防にも貢献できれば」と意欲を語ります。

また、「苦しくないカメラ」をモットーに行う内視鏡検査、精力的に勉強を続けている漢方薬治療も板橋医師のフィールド。内視鏡検査に不安を感じている方、漢方薬に興味のある方のご相談にお応えします。



理学療法士を志した 古巣へ帰り地域に恩返しを

佐藤理学療法士は8年前に当院のリハ室で助手をしていました。働きながら夜間部で学び、臨床実習で忙しくなったために退職。養成校を卒業し国家資格取得後は、地方のリハビリの状況を知りたいと希望し、地元を離れて就職しました。療養型病院、デイケア、訪問リハと経験を積み、

「今は在宅寄りのところに興味があります」と語ります。

そして今春、縁あって古巣に戻ってきました。「恩返しができますね」とっこり答えてくれました。



理学療法士(P.T)
佐藤 純吾 (じょうじゆんご)
1978年、札幌市生まれ。北海道千歳リハビリテーション学院理学療法学科卒業。中標津町や北広島市の病院を経て、2014年4月1日、当院診療技術部リハビリ科に着任。

退院後の暮らしを見据えた リハビリで在宅を支援

回復期リハでの勤務経験がある阿部言語聴覚士は、訪問リハとデイケアに関心があり、当院への転職を決めました。「入院中に転倒がなくても家では転倒してしまうケースに学んだり、以前よりもさらに退院後のこと



言語聴覚士(ST)
阿部 美里 (あべみさと)
1987年、恵庭市生まれ。北海道医療大学心理科学部言語聴覚療法学科卒業。石狩市や小樽市での病院勤務を経て、2014年3月1日、当院診療技術部リハビリ科に着任。

を考えたリハができるようになったと思います」。明るく活発な院内のムードも気に入っています。

言語聴覚士は、聞く・話す・飲み込むの機能回復が専門。「気になる症状があれば、ぜひご相談ください」と呼びかけます。

患者さまの求めに 気づけるケアを目指して

一般病棟のほか、障害者病棟で透析や呼吸器装着の患者さまの看護経験を持つ櫻井看護師。「全病棟が呼吸器装着の方という病棟勤務は初めてで、どういう看護をしているのかにとても興味がありました」。

着任後の病棟では、患者さま個々の状態に合わせた細かなケアを職員間で共有し、ケアの質を標準化していることに感心。今後は、ご家族とのコミュニケーションからも患者さまについての理解を深め、言葉にされなくても求めに気づけるケアを目指したい



看護師
櫻井 貴子 (さくらいたかこ)
1974年、札幌市生まれ。函館医療保育専門学校看護学科(現函館看護専門学校)卒業。札幌市内の病院を経て、2014年4月1日、当院看護部に着任。

と抱負を語りました。

積極的な声かけと笑顔で 動けない患者さまを介護

これまでは自分で動ける方の介護が中心の施設勤務で、病院は初めてという千田介護員、呼吸器を装着する患者さまの介護には細心の注意を払っているといます。「早く自分で動けるようになりたいと、ペアで働く先輩に細かなことも指示を仰ぎ、患者さまお一人おひとりの介護を覚えていくところです」。

病棟が心掛けているのは積極的な声かけと笑顔。初めてお会いするご家族には自己紹介し、コミュニケーションに努めています。



介護員
千田 明日香 (ちんだあすか)
1985年、札幌市生まれ。札幌商工会議所付属専門学校福祉ビジネス学科卒業。札幌市内のグループホームや老人保健施設を経て、2014年4月1日、当院看護部に着任。



自宅での看取りも含めた 多様な医療サービス

一般病院、療養型病院、デイケアでの勤務経験を生かして、神経難病等をはじめ人工呼吸器を装着の患者さまやご家族の支援をしたいと考えていた小山医療相談員。在宅サービスと連携しながら関わられるとして、当院での勤務を決めました。

「明るい雰囲気、個性あふれる職員が多く活気がある」が、職場の小山評。毎日刺激を受けながら勉強させてもらっていると云います。「至らない点もあるかと思いますが、よろしくお願いたします」。



医療ソーシャルワーカー(MSW)
小山 実恵 (こやまかほ)

1980年、札幌市生まれ。北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科卒業。札幌市や北広島市での病院勤務を経て、2014年3月1日、当院地域連携室に着任。

人工呼吸器を通して 患者さまの療養をサポート

人工呼吸器など精密医療機器の管理・メンテナンスを担当する佐々木臨床工学技士。「機械を通して患者さまを支えます。そのためにも、故障は絶対にあつてはいけません」と、力を込め

て抱負を語ります。

車両整備工、自衛官と社会経験を経て転職した臨床工学技士は、メカニクスの奥深さと、人に求められる充実感の両方があることから選んだといっています。「早く仕事を覚えて、機械だけでなく患者さまも見られるようになりたいです」。



臨床工学技士(ME)
佐々木 拓也 (ささきたくや)

1988年、札幌市生まれ。吉田学園医療歯科専門学校臨床工学学科卒業。2014年4月1日、当院診療技術部臨床工学科に着任。

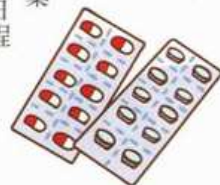
地域のお役に立てるように 糖尿病教室での講師役も

病院に勤務し入院患者さまの院内調剤で経験を積んできた松島薬剤師と、病院から調剤薬局まで勤務経験豊かな江口薬剤師。当院で、ともに院内調剤に携わります。

病院によつて薬剤の種類や業務手順などに異なる点が多いため、まずは「早く慣れることに注力」と二人。「薬剤と注射剤の担当を一週間ごとに交替しながら業務を行い、札幌ライラック病院の患者さまの調剤について早く把握できるよう努めています」と話します。

定期開催されて

いる糖尿病教室では、薬剤師が講師を務める回があり、二人も糖尿病薬について指導を行う日程が組まれています。また、院内の委員会活動では、NST(栄養サポートチーム)に所属し、管理栄養士や看護師など他職種と協力しながら、入院患者さまの栄養状態の管理、改善を図っていく予定です。「職場環境に早く慣れて、皆さまのお役に立てるよう頑張ります」。



薬剤師
江口 敦子 (えがちあつこ)

1956年、旭川市生まれ。東京理科大学薬学部卒業後、道外の病院で勤務。札幌市内の整形外科や調剤薬局を経て、2014年4月1日、当院診療技術部薬剤科に着任。



薬剤師
松島 理恵 (まつしまりえ)

1973年、札幌市生まれ。北海道薬科大学薬学部卒業後、札幌市内の複数の病院を経て、2014年4月1日、当院診療技術部薬剤科に着任。

札幌ライラック病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重いたします。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名、検査結果、受ける処置やケアの内容について十分に説明が受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意思が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援します。
5. 身体的なことだけではなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育を受けることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

内科、消化器内科、整形外科、神経内科、内視鏡内科、糖尿病・代謝内科、麻酔科、リハビリテーション科

受付時間

平日 9:00~12:30 13:30~17:00
土曜 9:00~12:00 午後休診

※但し急患の方は上記に問わず随時受付いたします。

面会時間 14:00~20:00

ホームページ <http://www.lilac.or.jp/>



医療法人 北志会

札幌ライラック病院

札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号
TEL(011)812-8822

デイケアの ボランティアさん募集中!

こんな活動をしてみませんか?

- ①お茶出しや食事の配膳の手伝い、お話し相手
- ②書道や絵手紙など趣味活動の講師役、特技の発表

活動時間 ①9:30~12:30 ②14:00~15:00

お問い合わせはデイケア・中田まで